

能代公園 にぎわいにあふれ



演奏・ダンス 来場者満喫

つつじまつりM&Dフェス

能代市の能代公園ににぎわいと、市民有志による「能代公園つつじまつりミュージック&ダンスフェスティバル(M&Dフェス)」が24日、開幕した。園内の池のほとりに設けたステージでは、市内外の団体・個人によるバンド演奏や吹奏楽演奏、よさこい踊り、ヒップホップダンスなどが繰り広げられ、園内は活気に包まれた。会期はきょう25日まで。

同フェスは、かつて花見シーズンに合わせて多くの市民が訪れた能代公園に、にぎわいを生み出し、中心市街地の活性化につなげることを目的に、平成29年に「能代公園おもしろ祭り」として始まった。新型コロナウイルス禍後には「能代公園おもしろアート祭り」に改称、昨年から実行委員会メンバーの世代交代を図った上で「M&Dフェス」として開催している。

今年も2日間開催で、初日はアマチュアバンドや市内のよさこいチーム、新日本舞踊・麗秋流、能代べらぼう太鼓など14団体によるパフォーマンス、最終日は能代公園音楽愛好会のバンド演奏や日本音楽振興会能代支部によるカラオケを行う。また松風庵での絵画展や龍泉寺の本堂開放(25日のみ)のほか、海産物や味噌たんぽ、そば、ジンギスカン、焼きだんご、パンなどを販売する13業者がキッチンカー・屋台を出店した。

初日のステージは、能代べらぼう太鼓の演奏で幕開け。長年親しまれている「パディ」「ダンクー」の2曲を威勢の良いばちさばきで奏で、会場を盛り上げた。

毎年恒例となっているよさこい踊りは今回、同市ののしろWINDJr.、能代YOSAKOI、颯々、能代松陽高の「美咲華」の3

園おもしろアート祭り」に改称、昨年から実行委員会メンバーの世代交代を図った上で「M&Dフェス」として開催している。

団体が出演。各団体による演目のほか、総おどりや「いやさか秋田」「よつちよれ」を披露。息の合った演舞を繰り広げていた。

また昼時には、それぞれのキッチンカーや屋台の前にお目当ての食事を求める来場者の列ができ、にぎわいを見せた。

畠山雄晃実行委員長は「地域にとつて『あつて当たり前』のイベントになっていることをうれしく思う。今回は運営に若いボランティアも加わり、ありがたい限り。『継続は力なり』を合言葉に、より地域に定着させていけたら」と話した。

最終日の開演時間は、午前9時30分～午後4時30分。屋台・キッチンカーの営業、龍泉寺の開放は午前10時～午後3時。